

日野川水系大規模氾濫時のタイムライン研修会議事概要

日時：平成 29 年 11 月 16 日(木) 15:10～16:40

場所：米子食品会館

【出席者】

- ・出席者名簿参照

【議事概要】

進行：梶川副座長（鳥取大学地域安全工学センター 助教）

1. 研修会の振り返り（日野川河川事務所 大元事業対策官）

2. 想定災害シナリオの把握

- 気象状況について（鳥取地方気象台 米井気象官）
- 浸水状況について（パシフィックコンサルタンツ 小河）

3. グループワーキング（パシフィックコンサルタンツ 飯田）

- ワーキングの進め方
- グループ別氾濫特性（時系列浸水状況）の把握

【ワーキングのポイント】

- 日野川流域の氾濫ブロックでグループを構成し、さらに類似業種でチームを編成
- 地域の実情にあったタイムラインを作成していくため、時系列で被害の様相の変化をイメージしておくことが重要である。その上でその被害を発生させない（または軽減させる）ための事前防災行動を考える。
- 検討においてはタイムラインレベル（検討上の仮設定）を参考にする。
- 浸水状況を把握した上で、ピンク色の付箋に被害や影響を記入し（例えば内水開始、道路冠水、操業停止、機材水没など 1 枚に 1 つ）、時系列に整理する。
- 防災行動項目については黄色の付箋に記入する。事前作業にて行動項目の抽出をしていただいた場合は、その項目及び本日の新たな気づきを付箋に記入し、時系列に整理する。
- 他機関の動向を知りたい場合は、声をかけながら進める。どの機関に聞けばよいかわからない場合は、スタッフへ確認する。
- 気づきや他機関へのお願いについては青い付箋に記入する。

【最後に】

- 大きな行動のシナリオを確認することができた。
- 次回は行動できるレベル、時間がわかるレベル、分担がわかるレベルに細部化、階層化

を行う。

- タイムラインは地域の財産になるものであり、地域で育てる方法も含めて、引き続き一緒に取り組んでいきたい。

4. その他（日野川河川事務所 大元事業対策官）

- 第2回もよろしくお願いいたします。
- また、タイムラインの作成に向けて、3回の検討会だけでは足りない部分を事前作業にてお願いすることになるのでご協力をお願いいたします。

— 以 上 —